

令和6度 学校評価・学校関係者評価書

			学校名		稲美町立加古小学校	
1 学校運営の目標・方針			4 総合的な学校関係者評価			
自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる子の育成 ～地域社会の一員として自分の良さを活かして幸せに生きていける力をつける～			・学校運営の目標に対して積極的に取り組めている。 ・チーム担任制の取組も軌道に乗り、コミスク座談会で出された子どもの意見も尊重して学校行事の内容を考えられる等、全教職員で子どもたちを育てていこうとされている。 ・小規模校の良さを活かした児童の主体性や地域の特性を活かした取組が実現できている。また、多くの大人の目で見守ることができる素晴らしい学校である。 ・目標達成のために先生方が同じ方向を向いて子どもたちに接し、指導してくださっている。そのことは子どもたちにも伝わっていると思われる。 ・チーム担任制・教科担任制になり、全ての先生方で児童一人一人を温かく見守り、個性に合わせた主体性を養う取り組みが素晴らしい。 ・運動会等の学校行事や体験学習においても、児童が真剣に臨み、自分たちで作り上げる力がついてきていることに大きな成果を感じる。児童も保護者も先生方の適切な指導を高く評価していると思われる。			
2 本年度の重点目標						
○安心できる学校 ○お互いを尊重し、信頼し合える学校 ○自ら学ぶ意欲を育てる学校○地域とともにある学校						
3 学校自己評価結果 A: 十分達成している(そう思う) B: おおむね達成している。(ややそう思う) C: どちらかというと達成されていない。(あまりそう思わない) D: ほとんど達成されていない。(そうは思わない)			5 評価項目ごとの学校関係者評価			
分野	評価項目・取組内容(指標)	達成状況	学校の取組状況・改善の方策		学校自己評価の結果及び改善方策についての評価	
学校運営	・学校教育目標や学校経営方針を教育活動に反映し、日々の教育活動を学校だより・学級だより・ホームページ等で分かりやすく伝えている。	A	・学校メール、ホームページ、保護者連絡ツール、紙媒体等、状況に応じて適切な手段を用いて情報発信に努めた。ホームページについては、表示がされなかったり更新に時間がかかったりといったことがあり、未だ不十分な点が残る。事務局や業者と改善策を講じている。ホームページへの掲載や更新頻度については、個人情報を考慮して行っている。学年からの連絡等は、必要に応じて保護者連絡ツールを活用して随時発信し、児童の日々の学校での様子や体験活動等については学校だよりで情報提供したことは、評価が高かった。また、学校だよりを地域回覧することで、学校での取り組みの理解が進み、児童のためにと図書の寄付やそばんの寄付があったり、学校行事や研修、様々なボランティア活動等への地域の方の参加が増えたりし、大変有難かった。		・学校だより等を地域の人たちに見ていただくのは良いことだと思う。 ・学校だよりやコミスクだより、HP、スクリレ等を通して普段の学校生活や行事の様子がよくわかった。紙媒体は地域回覧してもらっているのも、地域とのつながりが増している。 ・HPは自主的に確認しないで見られないので、今後は保護者連絡ツールの活用を増やす方がよいのではないかと。 ・学校の教育目標や経営方針を年度当初に説明され、その進捗状況を学校だより等で情報提供されているのでよくわかる。 ・保護者連絡ツールでのお知らせはいつでも確認できるので、とても有難い。紙媒体だけのお知らせもあるので、スクリレでも配信してほしい。	
	・学校行事の時期や内容は適切である。	A	・コロナ禍を契機とした学校行事の在り方を検討し、精選したこともあり、感染症対策をしながらも、制限をなくして多くの保護者や地域の方をお招きして、運動会や学習発表会、オープンスクール等の行事が実施でき、保護者や地域の方々に喜んでいただくことができた。運動会は悪天候のため中断して後日、平日開催となったが、たくさんの方にご来校いただき、地域参加プログラムにも閉会後の環境整備にも多くの方にご協力いただくことができた。開催時期については、どうしても2学期に偏りができてしまうが、行事を特別な場としてではなく、年間の学習計画を鑑みての、それぞれの発達段階に応じた学びの発表の機会と捉えているので、1学期の実施は難しいと考える。内容については、自然学校や修学旅行だけでなく、運動会や学習発表会も「自分たちでつくる」という姿勢で、児童が主体的に計画・運営にあたり、保護者や地域の方からは高い評価を得ている。		・学校行事の開催が工夫して実施されている。特に運動会や学習発表会、加古フェスなどは様子がよくわかった。 ・学校行事の時期については、児童の発達段階に応じた計画されているので、このままでよい。 ・内容については、児童も積極的に計画・運営に携わり、自分たちでつくり上げたという達成感が生まれるので今後も進めてほしい。 ・行事には保護者だけでなく地域の方も多く参加されている印象がある。児童が進行することで保護者の楽しさも増えている。運動会では、コミスク・PTAプログラムが入り、地域の方にも楽しんでいただけたと思う。 ・どの行事も児童が主体になって取り組んでの成果が素晴らしい。	
	・清掃が行き届いており、美化に努め、校舎内外の物が整理整頓されている。また、定期的に施設・設備の点検をしている。	B	・2学期から水曜日の掃除を「自問清掃」として、中学年以上で取り組んでみた。自分で掃除が必要場所を見つけて掃除をするのだが、取り組んでみて難しいと感じた学年は、自分たちで取り組みの形を変更したり、従来の形に戻したりしている。試行錯誤しながらも質の高い掃除を目標に取り組みたい。その一方で自主的に窓ふきや、気になるところの汚れ落としに取り組む児童もいる。保護者アンケートでは「学校でトイレ掃除をするようになって、家でもトイレを掃除するようになった。みんなが使うところだからきれいな方がよいからと嬉しそうに話している。」という意見をいただき、日々の指導の成果が現れていると思われる。安全点検については毎月、教員で行っており、不備が見受けられた場合は即座に対応するよう努めている。一昨年度より引き続き、コミスク委員や地域の方が学校安全の日等に来校し、校内の危険箇所点検や、普段児童ができない場所の清掃活動をしてくださっており、安全で清潔な環境を保つことができていることは大変ありがたい。		・古い校舎ではあるが、危険箇所の点検・補修なども毎月実施されているようで安心できる。「自問清掃」の取組は、目標を設定し、子どもたちの意識を高めて成果が出ることを期待する。 ・清掃に関しては、いつもきれいに清潔な環境で学習することが大事なので、一部の子が頑張るのではなく、全員の意識を高めて気が付いたらごみを拾ったり汚れをどったりというような行動がとれるようになってほしい。 ・トイレがきれいになったので、みんなできれいに使おうと心がけているようで、学校美化に取り組んでいる。	
	・いじめ・不登校問題等への対応は適切で、教職員が一致協力できる生徒指導体制ができています。	B	・今年度は1学期から1・2年生もチーム担任制を導入し、全学年がチーム担任制となった。教職員間では、毎週チーム担任者会議を開き、生徒指導面での情報だけでなく複数の目からの児童の小さな変化や気づきを情報共有している。児童や保護者には理解が進み、制度に慣れては来ているが、さらに保護者の方々と情報共有を密に行い、信頼関係を構築できるよう努めたい。即座に改善しにくい課題や不登校児の対応・支援については担当者を決め、保護者との信頼関係を大切にしながら対応し、全部欠席の児童はいなくなった。また、心の健康等の授業により、SOSの出し方やしんどくなる前の相談を児童が意識するようになり、気軽に児童がスクールカウンセラーに相談する機会が増え、教員と連携した取り組みが進んだ。町のふれあい教室とは連絡を密に取りながら情報提供し、児童の気持ちと保護者の意向を大切にしながら学校と関われる機会の模索を続けている。そして、いじめや不登校にかかわらず、児童も保護者もより相談しやすい体制づくりを工夫したい。		・いじめや不登校については対応が難しいと思うが、児童の小さなサインを見逃さないよう、チーム担任制の良さを活かして全教職員で情報共有して取り組んでもらいたい。 ・複数の担任が存在するので、相談する側としてはどの先生に？となる方もまだまだ多いように思う。「相談しやすい先生に」というところをもっと保護者に浸透するとよいと思う。 ・チーム担任制を取り入れることで多くの大人の目で見守れている。児童が悩みを抱え込まないように、気軽に相談ができる風通しの良い空間をつくってほしい。 ・小さなトラブルにもすぐに対応し、丁寧に相談に乗られているようで、保護者も安心できているようだ。 ・スクールカウンセラーに気兼ねなく相談できることは、児童にとっても救いになることだと感じる。 ・いじめ・不登校等の問題は様々な原因があるとと思われるので、早期発見早期対応が重要である。	
	・危機管理マニュアルを作成し適切に運用している。登下校の安全について、点検・指導がされている。	B	・危機管理マニュアルを作成し、非常時の教職員の動きや役割について適宜確認している。不審者の学校への侵入対策として、すべての通用門を施錠できるようにになった。また、教職員にも来校者については必ず防犯カメラで確認する意識が進んでいる。避難訓練については、時間や場所等を工夫した訓練が実施でき、児童の気づきも大きかったようだ。登下校については、地域の方がボランティアで同行してくださったり、民生委員や地域の方の見守り活動があったりして、非常に有難い。近年地震だけではなく、豪雨や山火事等の災害も増えてきている。様々な危機管理対応について、更に教職員の研修を行い、知識を養い意識を高めていきたい。そして、毎日の登下校での交通安全はもちろんのこと、「自分の身は自分で守る」といった児童への防犯・防災意識育てる取組を充実させたい。		・交通事故対策や不審者対策等、地域の方も借りてパトロールや見守りを強化しながらも、児童の学年に応じて「自分の身は自分で守る」という意識を持たせる取組をお願いしたい。 ・避難訓練で学んだことを実際、家庭でも話してくれるので、しっかり理解できていると実感している。先生方の伝え方が適切で上手であると感じた。 ・すべての通用門の施錠が整い、校舎への不審者対策がしっかりできている。 ・登下校についての見守りやボランティアの方や民生委員さんの同行がありがたい。 ・交通指導員の方がとてもよく見てくださっていて安心である。 ・突然起こりうる自然災害についての防災意識も高めてほしい。	
教育課程	・授業方法を工夫・改善し、分かりやすい授業に心がけている。	A	・全学年で教科担任制を取り入れ、より専門的で系統だった教材研究を通してわかりやすい授業づくりに取り組んだ。研究体制として「ICT活用力育成部」と「自己調整学習育成部」の2部体制研究をすすめ、それぞれの部で研究したことを情報交換し、資質向上に努めた。また、教職員のICT活用力がついたことで、ICTの利点を大いに活かした授業に取り組むことができた。また児童が主体的に学び、タブレット端末でまとめ発表する力が育ち、ICTを活用した協働的な学びにもつながっている。個別最適な学びの実現に向けて、自分で課題を設定して取り組むことにも挑戦させた。まだまだ不慣れな児童も多く、浸透するには時間がかかるが、徐々に自己調整力がついてきている。基礎基本の学力の習得を確実にし、どの子どもも主体的・対話的で深い学びができることを目指して今後も授業改善に取り組んでいく。		・教科担任制を実施することで中学に進学した際の土台が構築されているので対応しやすいと思う。 ・全学年で教科担任制を取り入れ、ICTを活用して児童が主体的に学ぶ力をつける工夫がされている。また、先生方の専門性を活かして児童にわかりやすい授業をめざしてほしい。 ・基礎基本の学習をしっかりと、その後で学年に応じてステップアップして力をつけるということには課題があるようだ。 ・タブレット端末を有効に活用している様子は学校内でも家庭でもよく見受けられる。タブレット端末を活用しての学習の成果に期待している。また、「ふりかえり」の時間はとても大切だと感じている。 ・コミスタ(低学年の放課後学習)に参加することで、1・2年生に教えることの難しさを知った。	
	・評価(授業評価・学びの姿等)を通して、適切な指導をしている。	A	・評価については、各教科ごとの振り返りを大切にし、毎時間の学びを自分で評価しながら次の課題を設定させるとともに、児童の学びの姿勢を見取り、評価につなげていった。			
	・子どもに家庭学習(宿題等)や学習準備等の習慣を身につけさせている。	B	・低学年、中学年、高学年と、目指す家庭学習の在り方が違うことを理解させ、ステップを踏んで「自ら学ぶ」力をつけられるように取り組んだ。生涯学び続ける力をつけるために、低学年では家庭学習の習慣をつけ、中学年以降では反復学習も行いながら自分で課題を設定・計画して取り組み、それを分析して次の学びにつなげる家庭学習を推奨した。しかし、自分で取組を調整することがまだ十分にできない児童も見受けられ、学年や学習内容によっては教師側から課題提示するということに柔軟性をもって取り組んだ。引き続き、与えられた課題だけではなく、自分に必要な課題を見つけたら予習を取り入れたりするような家庭学習に対する児童の意識の育成に取り組むと共に、自己調整して行う家庭学習の意義について保護者の理解が得られるよう、いつそうの啓発に取り組むたい。		・自主的に学ぶことでの効果は大きいと思われるが、反面、個人差が出やすいので、教師のフォローが不可欠のように思う。自発的に家庭学習ができる子とそうでない子での、習得度がどれくらい違うのかが気にかかる。大きな差がでなければいいのだが・・・ ・家庭学習の定着や生活習慣・読書習慣の確立には個人差が大きいように思う。反復練習や予習課題など、家庭と連携を取りながら地道な指導をお願いしたい。 ・学年に応じて課題をレベルアップして「自ら学ぶ」力を引き出す取組は効果が出てきていると思われる。 ・予習の仕方がわからない子もいるようなので、難しいかもしれないがまずは予習がしやすいような宿題を出してやってほしい。	
	・体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れている。	A	・教師のサポートのもと児童が自分たちで計画し取り組む活動を積極的に取り入れた。修学旅行や自然学校のみならず、各学年での体験活動やゲストティーチャーを迎えての学習や交流学習においても児童が主体的な姿勢を見ることができた。高学年だけではなく、中学年においても自分たちで考えて計画して運営するといった活動ができるようになってきている。また、地域の方の協力を得てのサツマイモ植え・収穫体験や3年生の田植え・稲刈り体験、まちづくり加古の会と共催しての巡回水族館や防災学習、アスリート派遣事業、狂言鑑賞等、たくさんの地域の方の協力と事業応募により、様々な体験活動を提供できたことは、保護者からの評価も高い。		・体験学習は加古地域の特性を大いに発揮できている。積極的に取り組まれており、皆の評価も高い。 ・修学旅行や自然学校等、様々な体験活動は児童に知識や教養を身に付けたり、興味をもたせたりするだけでなく、思いやりや協力する心を楽しい思い出と一緒に養っていると思われる。 ・狂言や雅楽等、日本の伝統文化に触れ合う機会を作っていたただけたのがとても良い。個人的には保護者も参加できたらと思う。 ・体験的な学習は児童の心身ともに成長させるよい機会だと思う、外部の力を活用しながら様々な体験ができているので、今後とも継続して取り組んでほしい。	
	・道徳の授業を大切に、内容の充実にも努めている。	A	・高学年、低学年とも学年を交替しながら、道徳の授業を行った。多くの教師が多様な視点から関り、きめ細やかに一人一人の内面の成長を促すよう努めた。さらに小規模校の利点を活かし、一人一人の道徳性の育成に努め、温かい居場所づくりに取り組みたい。また、夏には講師を招いて教材分析シートを活用した授業づくりの研修を行い、2学期以降の道徳の授業に活かすことができた。令和7年度に稲美北中学校区で「道徳教育実践研究事業」を受けることもあり、天満小学校や稲美北中学校と連携しての道徳科における授業改善と実践研究にも取り組んでいく。		・個性や一人一人の人格を認めることができる子に育つためには、道徳の時間は大変重要な授業だと思うので、内容を充実させてほしい。 ・道徳は人としての基本であると思われるので、積極的に取り組んでほしい。 ・小規模校の良さを活かしたきめ細かな指導で児童の内面の成長を促す道徳教育の取組を期待している。 ・北中校区3校との連携で道徳科の授業に取り組まれることは必要なことである。加古小はークラスずつという変化のない人間関係の中で育っているのも、中学校になって他校の児童と一緒にしてもお互いに認め合い、個性を尊重できる人間関係を育てるように学びを進めてほしい。 ・道徳の考え方は時代と共に変化している部分もあるので、ニーズに見合った学習が必要だと思う。	

	・読書活動を充実させている。	A	・今年度は、地域の方から図書の寄付を受け、国語の教科書で紹介されている本を各教室に置くことができ、子どもたちの読書活動がますます充実した。そして、図書ボランティアの方が図書室の整備してくださり、いつでも本が探しやすい環境となった。また、朝・業間休みには図書委員会がきっちりと放送をかけ、図書室を開館できていることもあり、利用割合が増え、保護者アンケートでも図書室に行くこと楽しみにしているや読書の習慣がついてきたなどの意見が多かった。学年ごとにビブリオバトルも開催され、読書した本の紹介する楽しさも広まっている。活字離れが進んでいる状況でもあるが、活字に触れる重要性をしっかりと認識し、さらに読書活動の充実に取り組み、豊かな読書経験を積ませたい。	・常に新しい図書が入っているようなので、子どもたちも喜んでいる。授業での図書の時間の確保を継続してほしい。 ・読書習慣がつくように気配りされている。読書は楽しみながら知識を増やしたり心を豊かにしたりできる。図書室に行きたいと思える工夫や案をもっと出してほしい。 ・図書が充実している学校である。ビブリオバトルでプレゼン力を向上させ、更に本に関心を持てることを期待する。 ・休み時間に外で思いっきり遊ぶ子も増えてほしいし、大人の読書離れが進んでいるので、本が好きな子も増えてほしい。
--	----------------	---	---	---

分野	評価項目・取組内容(指標)	達成状況	学校の取組状況・改善の方策	
課題教育	・生命の大切さ、共に生きる豊かな心の育成に努め、地域の人々との関わりを通して、実践的な力を培っている。	A	・各教科や行事等、すべての教育活動を通して、命の大切さや人と人とのつながりについて、繰り返し指導することで、命を大切にすることや友だちの個性を認めながら一緒に学び成長していこうという心が育ってきている。特に、本校は、登下校の見守りや環境整備、体験活動、学習支援等において、非常に多くの地域の方にご支援いただいており、児童は地域の方々との交流を楽しみにしていると共に地域愛と地域の方々への感謝の気持ちが育っている。そして、PTAやコミスクを中心に地域の方々の教育力を活かし、学校だけでは培えない子どもたちの実践的な力の育成を行うこともできた。	・児童が友だちと協力している様子をよく見る。地域の方々の様々な協力は本当にありがたい。 ・地域住民の一人として子どもたちに接する機会が増え、こちらも元気をもらっている。地域へのボランティアの依頼を続けてほしい。 ・近年は核家族化、働くお母さんが多いので、地域の児童は地域みんなで育て、見守っていこうということで取り組んでいきたい。地域の方々も交流を楽しみにしていて、応援してくださっている。 ・地域との付き合いが少なくなってきているので、学校で地域の人と触れ合うことはいいことだと思う。
	・環境体験学習・自然学校等で体験活動を充実させている。	A	・幼・1・2・3・6年生でのサツマイモ植えと収穫体験、3年生の稲作体験、1年生や特別支援学級の大根抜き体験等、様々な体験を地域の方のご厚意とボランティアの皆さんやJA青壮年部の協力を得て行うことができた。5年生の自然学校も、現地スタッフの方々の指導の下、教師の手を借りることなく自分たちで行動することができた。保護者アンケートでも、「いろいろな体験を地域の方に教わることでコミュニケーションも取れて良い」や「学校や家庭以外での経験(成功・失敗)」をさせてもらえることは有難い」等の意見があった。今後も各学年に応じた体験活動を進めていきたい。	・動物、植物を問わず、生き物を育てる大変さや面白さ、大切さ、成長の喜びを味わえる場を増やしてほしい。 ・学年に応じて充実した体験活動ができる地域柄に感謝している。 ・体験学習全般において「良い体験をしている」「豊かな心を育てている」「自主的に行動ができるようになった」「貴重な時間を持てた」という声を聞いている。継続して様々な体験活動の実施を継続してほしい。 ・先生方の計画と工夫のおかげで児童は地域の特性を活かした体験活動ができており、大変素晴らしい。
	・計画的に避難訓練等を実施している。	A	・火事・不審者・地震の三つを想定した避難訓練を行った。今年度は、さすまたの各階の設置を完了し、不審者についての訓練では、各教室を施設しバリケードをつくる等、より実践的な訓練を行い、教師の動きや役割分担の再確認を行った。また、地震の避難訓練においては、阪神・淡路大震災が発生した1月17日に時間の予告なしで朝に行い、運動場での遊びの最中、自分の教室や特別教室での準備、委員会活動中等、様々な場面での緊急放送による訓練となった。災害をいつ起こるかわからない、「自分の身は自分で守る」という意識が高められた。同日に防災集会を行ったことで児童の防災意識が一層高まった。	・毎年異常気象による災害や地震が多いので、まず「自分の身は自分で守る」という意識・行動が具体的にとれるような訓練の実施をお願いしたい。 ・様々な場面を想定した避難訓練や防災学習が計画・実施されていて、児童にも「どう行動すればよいのか」という意識が育ってきているように思う。 ・実践的な訓練を行えていて、状況によって自分で考え行動できるのは、先生方の指導のたまものだと思う。ありがとうございます。
	・外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。	A	・ALTが週二日は終日勤務していることから、授業だけでなく休み時間等にもALTに挨拶したり話しかけたりでき、英語や外国の文化等を身近に感じるができる。中学年の外国語活動では英語に慣れ親しむことを目標に、歌やゲームを取り入れてたり、ジェスチャーを交えて話したりしながら「聞くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」の活動に取り組んだ。高学年の外国語の授業では、「読むこと」「書くこと」にも取り組んだ。目線や表情、ジェスチャーを取り入れながら目的意識・相手意識を持って英語でのコミュニケーションする場を多く設定した。また、ICT機器も積極的に活用し、タブレットで自分の発表や友だちとの会話を動画を撮影し、それを個人でも共有して集団でも評価し合うことにも取り組んだ。しかし、苦手意識のある児童もいるので、いっそうの授業改善に取り組むとともに、児童の国際感覚の育成につなげたい。	・授業時間だけでなく、休み時間等でもALTと触れ合える環境が良い。 ・外国語となると苦手意識がある子も多いと思うので、歌やゲーム等、親しみやすいところからのアプローチがいいと思う。 ・グローバル化が進んで海外とのつながりを持てるよう、より英語を楽しみ会話ができるようになりたいと思えるような取り組みをお願いしたい。 ・稲美町でも外国の方が増え、普段の生活でも国際感覚が必要になってきている。小さい頃から多文化に接する機会が増えるといいと思う。 ・他国と比較しても日本の語学力が低下してきているようなので、ALTを通じて小学校のうちから外国語の力を身に付けられるよう注力いただきたい。
努力目標	・挨拶や返事ができるよう指導している。	A	・登校時に交通指導員さんや地域の方、引率ボランティアの方に自分から大きな声で挨拶できる児童が増えた。地域の方から挨拶の上手な児童を推薦していただき、表彰することも児童の励みになっている。一方で、保護者アンケートでは「もっと自分から進んで挨拶できるようになってほしい。」とのご意見もある。挨拶することの意義や大切さを伝え、さらに多くの児童が気持ちの良い挨拶ができるよ児童の育成に取り組む。また、授業中だけでなく学校での教育活動全般においてははっきり大きな声での返事や発表時の声の大きさについても継続して指導していく。	・登下校の見守りの時等に元氣な挨拶や返事ができる児童がいて嬉しい。地域住民としても積極的に声をかけていきたい。 ・挨拶は全ての基本である。社会に出てからも必要不可欠なので、継続して取り組んでほしい。 ・校舎内で出会った児童の多くから「こんにちは」「ありがとうございます」と声を掛けられ、うれしく思う。恥ずかしい年ごろの児童もいるが地域でも家庭でも挨拶を頑張りたい。 ・普段から挨拶ができていて大人ともコミュニケーションが取りやすくなっていると思うので、大人を頼ることが必要な際、自主的に声が駆けられると思う。
	・敬語や正しく適切な言葉遣いができるよう指導している。	B	・国語での学習を契機に、高学年で場所や相手を意識してきちんと敬語が使える児童が確実に増えてきている。地域の方や保護者から「高学年の子が丁寧な言葉づかいで話をしてくれる」というお声もいただいた。学校を卒業して社会に出た時の常識となるマナー、礼儀として、敬語や丁寧な言葉遣いができるよう、授業だけでなく学校生活中の中で取り組んでいる。まだまだ、遊びの中でや家庭では乱暴な言葉遣いをしてしまう子もいるので、今後も粘り強く指導していきたい。	・正しい言葉遣いは社会生活を送る上で欠かせないものであることを意識させ、家庭とも連携して継続して取り組んでもらいたい。 ・低学年の子どもでも敬語で話せる子がいて驚いた。まだまだ敬語は難しい子もいるが徐々に使えるようになると思うので、小さいころから言葉遣いの指導を続けてもらいたい。 ・人を傷つける言葉等についても粘り強く指導してほしい。 ・友だち間での言葉遣いとTPOによる敬語や丁寧な言葉遣いには違いがあるので、常に意識させる指導が必要である。 ・正しく適切な言葉とは？が親世代が理解できていない時代になってきている。国語を通じての指導の充実をお願いしたい。
	・お互いの良さを認め合う仲間づくりを目指している。	A	・安心して自分の良さと可能性を発揮できる「居場所」と「出番」を保障し、温かい学級づくりに努めた。教師が児童一人一人の強みを見逃さず、それを活かせる場面をそれぞれの教科や特別活動、行事の中に設定し、肯定的に評価することで、児童の中にも友だちの良さを認めるとともに、友だちの個性を大切にしようとする姿勢が見られるようになった。また、ここ数年継続して、LGBTQIについて全学年が授業に取り組み、さらに性について理解を深めることができた。1年生から多様性について学ぶことで、いろんな人がいることが当たり前だと自然に思える意識が育ってきている。児童が家庭でも学んだことを話すことで、家族で多様性について話し合う機会にもなっているようだ。今後とも、多様性やお互いの良さを認められる仲間づくりに取り組んでいく。	・みんながお互いの顔を知っている小規模校の良さを活かした学級づくり・学校づくりに工夫して取り組まれていると思う。 ・苦手なところがあったり障害があったりする子もいるが、お互いに学び合えることもあるように思う。困っている子を助ける心を育てていってほしい。 ・たくさんの教師の目で児童の良いところを見つけ、輝ける場所を作ってくださっていることは素晴らしい。 ・一人一人の良さや可能性を引き出し、発揮できる場を尊重している。児童もお互いを認め合い、友だちの個性を大切にしようとする姿が見受けられることは、人としての成長の兆しである。引き続き仲間づくりに力を注いでいただきたい。 ・LGBTQIについての授業を実施しているのは素晴らしい。
	・よく運動をしたり外で遊んだりし、健康に気を付ける配慮できる児童の育成を育成している。	A	・業間は原則外で遊ぶことを奨励し、積極的に運動場で遊ぶ姿が見られる。運動が苦手な児童も、外で太陽の光を浴びながら友だちと話をしたり散歩をしたり、それぞれに合った方法で健康な体づくりに努めている。教師も一緒に鬼ごっこやドッジボールなどをして遊ぶことで、運動が苦手な児童も外遊びを楽しむことができ、それが児童理解にもつながり、信頼関係を築く一助にもなっている。体調に応じての衣服の調整やマスクの着脱等、必要に応じて子どもが自分で判断して行えるようになってきている。また、委員会活動を通じて、児童が異学年でチームを作ったのドッジボール大会や大縄跳び大会を企画・運営し、楽しく体を動かす機会を増やす取り組みを行った。	・地域で子どもが外遊びをしている姿をほとんど見なくなったので、休み時間に多くの児童が先生と一緒に運動場で遊んでいる姿を見てうれしく思う。 ・外で遊びたくない児童もいると思うが、気分転換にもなるので外で遊んでほしい。 ・業間や昼休みに勢いよく外に飛び出してくる児童をよく見かける。ただ、汗だくの状態で授業を受ける姿も見るので、季節によって着替えの指導や声掛けをお願いしたい。 ・運動会でも子どもたち皆が張り切って演技や競技をしていてすごいと感じた。
	・学級・授業・行事で、まず自分たちで考えるよう促している。	A	・学校全体で児童の主体性を育てる取組を進めており、保護者からも地域の方からも支持していただき、高い評価を得ている。継続しての取り組みであるので、児童にも「自分たちで考えて動く」という意識が浸透している。今年度は低学年のころから様子を見ていた中学年も学級での特別活動や支援学校との交流等でも児童が主体で取り組めた。チーム担任制であることから計画時と実施時の担任が違うこと事がより主体性を育む契機にもなっているように思う。また、教科の学習においても、児童が学びを自己調整できることめざし、児童主体の学びを支援する授業についての取り組みを進めている。一朝一夕に育つ力ではないが、徐々に成果が出てきているので、粘り強く支援し、取り組みを進めていきたい。	・休み時間に外で元気に遊んでいる子が「もうそろそろ時間や。」とお互いに声を掛け合ってチャイムが鳴る前に教室に戻っていく姿に感心した。低学年のうちから時間に気を付けて、時間を守る習慣がついていると思う。 ・家庭科ボランティアの際に授業が始まる前に調理やミシンの準備をする児童の姿に感心した。 ・先生方の児童へのかかわり方が児童主体の行事等につながっていると思う。 ・様々な行事で児童が主体になって課題を見つけては改善しながら進行していく力がついているのが素晴らしい。やり遂げた時には自信が付き、より一層の向上心を持ち、心が豊かになっていくことと思う。引き続き指導の充実をお願いする。 ・今後も地域の方との交流が深まるような取組を増やしていってほしい。

自己評価における特記事項

・保護者や地域の方に学校教育活動についての情報提供を頻繁に行うことで、「地域とともにある学校」づくりに取り組んだ。学校に大変協力的であり、教育資材も豊富な地域の特性を活かした体験活動や学習支援が実現できている。地域ボランティアとしてのべ300人近い方が児童の学習支援や環境整備等に携わってくださり、学習効果が上がっていると共に落ち着いた教育活動が展開できており、大変有難く思う。ボランティアの方からは「楽しい」「やりがいがある」「もっと声かけてね」とのお言葉をいただいている。地域ぐるみで児童を見守り育てていただいていることを痛感した一年であった。
・「自分たちでつくる〇〇」ということで、行事、授業、学年活動等では、子どもたちが主体となつての取り組むことが定着してきており、地域の方からも称賛を受けている。先輩学年の様子をみて、下級生の児童たちも挑戦してみるというように学校全体に波及している。今後も継続して取り組むと共に、更なる充実にも努めたい。
・学校運営協議会の取組が充実し、児童との座談会において出てきた意見を学校行事を含め、様々な場面(運動会等での5年ぶりの応援合戦や地域プログラム(PTA共催)の実施、加古フェスへのコミスクブースの出店、お仕事体験「トライやるスクール」、ありがとうの会、学校肝だめし(PTA主催)等)で実現することができ、児童にとって自分たちの意見が学校づくりへの参画意識を高めることができたとともに、地域との結びつきが深まった。
・チーム担任制の取組については、3年目を迎え、児童や保護者にはもちろんのこと保護者や地域にも周知されつつある。教職員からは3年を経て改めて見えてきた良さと改善点(清掃・当番活動、不登校対応、学習習慣、相談体制、よりいっそうの共通理解等)については、率直な意見交換と協議を行った。今後も教職員で定期的にふりかえりの機会を設けることで、迅速に対応しさらにステップアップしたより充実した取組へとつなげていきたい。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

・保護者アンケートの意見も全体としては良い評価と思うが、少数意見の中に課題が見えてきたのではないか。チーム担任制の良さを活かしつつ、相談しやすい環境づくりと授業と授業の間の隙間時間の細かい指導等、改善の余地があると思われる。
・学校への相談の仕方に工夫をしてはどうか。メールやスクリレ等で相談の連絡ができてもいいのかも。
・グローバル化が進んでいるので、外国語をもっと身近に感じるような授業や活動を持ったり、習った外国語が使える機会を増やす取組はどうか。
・PTAの今後が形が確定できない中、今までのような活動を継続していくには、コミスク活動を通じての地域の力が必要だと感じた。行政と共に児童の学びに協力していきたい。